

台湾濁水河流域扇頂部〈竹山〉の都市と地域に関する調査報告 その1

清代 (17-19 世紀) の沙連堡地域の領域編成

台湾 濁水河流域 扇頂部 (谷口)
沙連堡 竹山 (林圯埔) 社寮

正会員 ○ 青井 哲人 * 正会員 吉田 光 ****
同 相川 敬介 ** 同 陳 穎禎 *****
同 武田 峻哉 *** 同 白 佐立 *****
同 棟方 佑香 **** 同 辻原万規彦 *****
同 三須 裕介 **** 同 恩田 重直 *****

1. はじめに：濁水河流域の扇頂上流部

筆者らのグループ (科研基盤研究 (B)15H04109, 2015-19, 代表青井) では、台湾西部の中央にひろがる濁水河流域をひとつの構造化された領域世界と捉える視角から台湾都市集落史研究を再構築することを試みている。(1)17世紀後半～19世紀：漢人の移民、開墾・定着、都市の形成と商業圏域の構築、(2)20世紀前半：植民地産業化の論理に沿ったこの領域の再編成、という枠組みが基本である。本報告4編は、D類型 (図1参照) の竹山地域をターゲットとした2018年の調査についてまとめる。

同地域は、中央山脈に発して粘板岩を削りながら流れ落

ちた黒い濁水溪が、八卦台地と觸口台地のあいだを西へ抜ける扇頂部＝谷口の上流側のエリアである。入植漢人集落の発展期である乾隆年間以降は「沙連堡」の行政区域名で呼ばれた。現在このエリアで最も中心的な市街は竹山鎮 (人口5万6千) の中心地竹山で、旧名は林圯埔 (林圯埔とも) である。この街は濁水溪の水面から40mほど高い台地上にあり、水運の拠点とは考えにくい。では、同地域の編成は歴史的にどう理解されるのだろうか。

2. 漢人入植 (17世紀後半～19世紀前半)

1665年 (明永暦19)、鄭成功配下の武将林圯が派遣さ

図1 清末濁水河流域における都市の類型・布置

都市類型	立地類型	備考
A 行政都市	: 内陸扇縁部	a 短期間だが県治が置かれた
B 対岸貿易港	: 沿海扇縁部	b 小規模な外港群
C 内陸河港	: 内陸扇中央部	c 小規模な扇中央部河港
D 谷口都市	: 扇頂部	d 小規模な扇頂部河港



A Survey on Zhushan: A Town and Surrounding Region in the Intermediate Area between Plain and Mountain Part 3
Town House(Shop Houses) in the Japanese Colonial Period

*Akihito AOI **Keisuke AIKAWA ***Shunya TAKEDA
****Yuka MUNAKATA *****Yusuke MISU ***Hikaru YOSHIDA
*****CHEN Yin-Chen *****PEI Chouli
*****Makihiko TSUJIHARA *****Shigenao ONDA

れて屯田を進めたが、その拠点はその台地上（竹園仔）に置かれた。前後して周辺の社寮・下崁・大坑莊・香員脚などへの早期の漢人入植も認められる。1683年（康熙22）に台湾が清朝統治下に入ると、当地域は諸羅縣（嘉義）管下に入り、18世紀初には林圯の名に因む地名〈林圯埔〉が文献に現れる。平野部の斗六から清水溪を越えて至る林圯埔は、山間の原住民諸部族社会への出入口である、といった記述である（『雜識志』1717＝康熙56年）。1723年（雍正元）、清朝は濁水溪流域を独立させて彰化縣とし、1755年（乾隆20）には当地域に〈沙連堡〉という行政区（24の庄・社・寮を含む）を設定した。これより少し前の1742年（乾隆7）に林圯埔に媽祖廟〈連興宮〉が、45年（乾隆10）には社寮に福德正神廟〈紫南宮〉が各々創建されており、1760年（乾隆25）の閩浙総督の奏上に「近日人煙稠密 商売往来不絶」と見えるほか、4年後の『続修臺灣府志』には〈林圯埔街〉の名も見える。乾隆年間に当地域の漢人の諸活動が活発化したことは間違いない。

これが平野部での社会集団間の武力抗争激化と平行していたことにも注意が必要である。いわゆる〈泉漳械闘〉（福建省泉州府系と同漳州府との抗争）は彰化縣下だけで記録上1769, 75, 82, 86, 88（林爽文の乱）、90, 91, 1806, 09, 44年と多数起きている。平野部の械闘では、概して、劣勢の漳州人が上流へ移動する結果になる。沙連堡地域への移民の出身地は初期からつねに南靖・平和・龍溪・漳浦・海澄の漳州5県に限定されるが、反復的な械闘により漳州出身者がさらに集積したと考えられる。

3. 転換（19世紀後半）

(1) 雲林縣治：1886年（光緒12）9月、清朝の地方制度改革により彰化縣が西螺溪を境に二分され、南半を雲林縣とした。その県治（官庁）が林圯埔に置かれる。濁水溪から迫り上がる台地上に、官民合弁で周囲1千3百余丈、幅約6尺の土墻を築き、三重の刺竹列で囲んだ（前山第一城）。円なら直径1Kmを超え、南門内に城隍廟（現存）を創建したというから、既存の林圯埔街を城内南部に抱き、北西は県治を置いた竹園仔（雲林坪）あたりまで既存集落を包摂したとみられる。しかし平野部との連絡に不便な立地条件ゆえ6年後の1893年には県治が斗六に移される。

(2) 撫墾局：清朝政府は台湾省設置とともに山地行政・原住民政の専管組織たる〈撫墾局〉を新設し、林圯埔に〈林圯埔撫墾局〉を置いた。治縣の陳世烈が兼務。林圯埔は撫番政策と山地資源・産業政策の拠点となったのである。

(3) 永濟義渡：沙連堡地域には濁水溪の渡しがいくつかあり、上流から溪州仔、社寮、枋寮が主な拠点であった。とくに社寮は重要で、先述の〈紫南宮〉と、北岸の濁水の媽祖廟〈福興宮〉とを往復する渡しが19世紀後半に有力層の出資により無償運営に転換され、社寮の大公街は「不

見天街」と称されるほど商業的に繁栄する。この無償の渡しは「永濟義渡」と呼ばれ、その趣旨・出資者・取決めなどが1879年（光緒4）の石碑「永濟義渡碑記」に記される。出資者には、最高額の董郁文をはじめ「郷賓」と記される漳州系の地元名士らが名を連ねるが、鹿港の商業ギルドのひとつ「菓郊」と「鹿港衆販商」20名の出資（総額の12%程度）は注目されることである。これは、漳州勢が基盤を固めていたこの沙連堡エリアに、鹿港の泉州系商人らが公共事業への協力を通して参入したことを意味するだろう。彼らは濁水溪の上下流をつなぐ流通拠点を、ここに獲得したのではなかったか。

4. 19世紀までの沙連堡の空間編成

日本植民地以前の濁水溪流域編成における沙連堡地域の特質を仮説的にまとめてみる。

①沙連堡地域への漢人の入植開墾は17世紀中期にはじまり、漳州系に限定された。②18世紀の乾隆年間には入植地が成熟発展に向かうが、同時に械闘頻発により平野部の漳州人が押され、当地域は漳州人集住地としての性格を固めた。③平野部の流域支配をほぼ確立した鹿港商人ら泉州勢力は、19世紀後半に当地域に漳州勢との協調関係を築きながら進出する。社寮はその有力拠点のひとつで、上流の集集・水里にも鹿港商人の進出が知られるから、下流の二水・北斗等とあわせて流域の權益を切れ目なく確保しようとしたのであろう。④他方で、19世紀後半の雲林縣は平野部の治安維持とともに、山間の撫番と山地資源・産業開発の拠点としての重要度を増した。

こうして、統治・軍事拠点かつ山地産業開発拠点としての台地上の林圯埔街と、濁水溪に沿って点在する社寮などの小港群との二重性が、山陵と平野の会う境界域に編成されたとの見通しが得られる。『雲林縣采訪冊』（1895＝光緒20採訪）は、林圯埔街354戸、社寮75戸という清末すなわち植民地最初期の市街規模といてよい数字を伝えるが、本稿ではその背景の素描を試みたことになる。

なお、日本植民地政府も1896年（明治29）に〈林圯埔撫墾署〉を設置し、濁水溪流域上流部の原住民の平定に腐心するが、同時に活発化した雲林県下の壮丁団の鎮圧も困難を極めた。林圯埔を拠点とする壮丁団の領袖であった林月汀はこのとき平野部の他集団鎮圧のため植民地政府に協力し、当地域の行政的地位と山地産業諸特権を得たようである。次報以降は、治安確立後、20世紀前半の林圯埔＝竹山市街の変容過程に迫りたい。

参考文献

- ・『竹山鎮誌』（陳哲山總編纂、竹山鎮公所、2001）
- ・『社寮三百年開發史』（林文龍編著、社寮文教基金會、1998）
- *本稿は科学研究費補助金基盤研究(B)「台湾都市史の再構築のための基盤的研究：都市の移植・土着化・産業化の視座から」（代表：青井哲人、平成27年～31年度）の成果の一部である。

*明治大学理工学部建築学科 教授・博（工）
** 平和エアテック（投稿当時、明治大学大学院生）・修（工学）
*** リノベ（投稿当時、明治大学大学院生）・修（工学）
**** 同大学大学院理工学研究科 博士前期課程
***** 国立東華大学台湾文化学科プロジェクト助教・博（工）
***** 東京大学教養教育高度化機構 特任助教・博（工）
***** 熊本県立大学環境共生学部居住環境学科 教授・博（工）
***** 法政大学エコ地域デザイン研究所 研究員・博（工）

*Professor, School of Science & Technology, Meiji University, Dr.Eng. **HEIWA AIRTEC, Ltd (Ex. Graduate Student of Meiji Univ). ***Renoveru Co., Ltd (Ex. Graduate Student of Meiji Univ). ****Master's Course, Graduate School of Science & Technology, Meiji University. ***** Project Assistant Professor, Department of Taiwan and Regional Studies, National Dong Hwa University. ***** Project Assistant Professor, Komaba Organization for Educational Excellence, University of Tokyo, Dr.Eng. ***** Professor, Faculty of Environmental & Symbiotic Sciences, Prefectural University of Kumamoto, Dr.Eng. ***** Researcher, Laboratory of Regional Design with Ecology, Hosei University, Dr.Eng.